

稲わらは焼かずに 有効利用しましょう！

- ◆稲わらは燃やせば**公害**、使えば**資源**です。
- ◆肥料・飼料・資材等の価格が高騰しています。
稲わらを大切な資源として、活用しましょう！



水田にすき込み！



畑のマルチとして！



家畜の飼料に！

稲わらの販売・買取希望者のリスト「稲わら流通促進マッチングリスト」
(県庁農林水産部 食の安全・安心推進課HP掲載)もご活用ください。

稲わらの有効利用に関するお問い合わせは

東青地域県民局地域農林水産部 農業普及振興室 (☎ 017-734-9961)
または、お住まいの市町村やお近くの農協本・支店へ

稲わら「すき込み」のポイント

稲わらは、毎年すき込むことで、作土が厚くなる、土が軟らかくなる、土壌窒素量が増えるなど、堆肥とほぼ同じ効果が期待できます。

次の注意点を守って、稲わらのすき込みで土づくりに取り組みましょう。

すき込み方法と注意点

- すき込みは秋が基本です。わらの分解を進めるため、稲刈り後、なるべく早くすき込みましょう。
- すき込み前に、石灰窒素などの腐熟促進剤を散布すると分解が早まります。
- コンバインで細断した稲わらをできるだけムラなく広げ、ロータリーで浅耕するか、プラウですき込みます。(山盛りのまますき込むと、生育がムラになりやすいです。)

⚠ 湿田や気象条件の厳しい地域では、稲わらは堆肥にしてから施用しましょう！

すき込み後の管理

- ようりん、ケイ酸質資材などの土づくり肥料を施用し、苦土、マンガンなどを補います。
- すき込み年数によって、基肥の窒素量を調節してください。

すき込み年数	基肥窒素量
連用2～3年目まで	慣行より5～10%増
連用3～4年目	慣行と同量
連用4～5年目以降	慣行より5～10%減

- 代かきは、水深を浅めにして稲わらを土中に埋め込みます。(水深が深いと稲わらが浮き、畦畔沿いに溜まってしまいます。)
- 初期生育の抑制や根腐れを防ぐため、中干し、間断かんがい、溝切りなどで、土に酸素を供給しましょう。

あなたの田んぼを「稲わらふりーでん」にしませんか？

「稲わらふりーでん」は、一般住民が稲わらを自由に持ち帰ることのできる田んぼです。稲わらをすき込めない方は、「稲わらふりーでん」に登録して、家庭菜園用などに稲わらを提供してみてもはいかがでしょうか。

青森市内で「稲わらふりーでん」を設置したい方は、青森市農業政策課(☎0172-62-1176)までご連絡ください。右の「決め手くんのぼり」を提供します。

また、青森市と東青地域県民局地域農林水産部のホームページで、ふりーでんの場所を公開します。

農業普及振興室のホームページはこちら →

